

第5章 实践事例集

実践事例の一覧

地域の未来像を共有するための学びの場づくり			頁
1	学びのカフェ～地域ジンまちカフェプロジェクト～	大竹市立玖波公民館	48
2	古民家・空き店舗改造カフェ	大竹市立玖波公民館	50
3	このまちにくらいしたいプロジェクト	広島市古田公民館	52
4	ふちゅう井戸端会議	府中市生涯学習センター	54
5	未来のタネを見つけよう	庄原市比和自治振興センター	56
地域の人材による家庭教育支援			
1	子育て支援者ボランティア学習会	広島市佐東公民館	58
2	子育て応援交流会（井戸端かふえ）	広島市祇園西公民館	60
地域の人材による地域学校協働活動の推進			
1	通学合宿	東広島市小谷地域センター	62
2	オール重井で協働のまちをつくり隊	尾道市重井公民館	64
地域防災・減災の仕組みづくり			
1	防災フェア in 向東	尾道市向東公民館	66
2	防災研修&炊き出し訓練	庄原市口和自治振興センター	68
3	東野発「災害をきざむ 地域をつなぐ」プロジェクト	竹原市東野地域交流センター	70
その他（地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成）			
1	郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」	神石高原町神石協働支援センター	72
2	満喫！かべ学「ボランティア養成講座」	広島市可部公民館	74
3	「子ども西国街道ぶらり旅」ボランティアガイド養成講座	広島市井口・鈴が峰公民館	76
4	地域の宝・歴史学習	広島市福田公民館	78
5	地元の素材で和紙作り	府中市協和公民館	80
6	森の学校ごっこ in とよひら	北広島町豊平地域づくりセンター	82
7	となりの達人に教えてもらおう！	北広島町千代田・大朝・豊平・芸北地域づくりセンター	84

学びのカフェ～地域ジン学びのカフェ～ 地域ジンまちカフェプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 23 年 7月～	玖波公民館	【「学びのカフェ」スタート】 ○月に一回、タイムリーな題材やおしゃれで楽しい講座を実施。 ○講座の合間に参加者同士が交流する「カフェタイム」を設け、参加交流型学習を実施。 ○講師や題材に地元の地域資源を発掘・活用。 ○取組を広めるためにフェイスブック・ブログで積極的に情報発信。
平成 24 年 度		【「学びのカフェ」ステップアップ】 ○ティディバア 着物リメイクで世界に発信（講演） ○ティーカップを学びながら「マイセン・ウェッジウッド入門」 ○夏のタベ ロビーコンサート 地元の演奏家 ○活断層 大竹は大丈夫？地震に強いまちを提案 ○知っておきたい相続の基本&日野原重明の100歳の金言 ○「ふしぎ探検！くらしの中の右・左」めくるめく左右不思議ワールド ○地理の先生の旅の楽しみ方「イースター島のモアイ像の謎」 等
平成 25 年 度～		【「地域ジン」誕生】 ○講座が定着し、参加者に仲間意識が生まれ、お互いを「地域ジン」と呼び合うようになり、講座名を「地域ジン学びのカフェ」とした。 ○講座の演題幕、名刺、ユニフォーム、幟、テーマソングCDを手づくりするなど積極的な活動が生まれた。 ○講座の中から自主組織「地域ジンまちカフェプロジェクト」が発足。 ○「見知らんガイドマップ&グルメスタンプラリー」、「古民家まちカフェ」、「まちの資料館」、「くばコレ」など多数の地域イベントが企画・開催されている。



対象	地域住民
経費	主催講座予算、各種助成金活用ほか
連携先	中学校、社会福祉協議会、企業等10団体

問合せ先

大竹市立玖波公民館

〒739-0651 大竹市玖波 1-10-1

電話：0827-57-7084 ファクシミリ：0827-59-0004

2 講座設定の理由（事業の目的）

○玖波地区は空き家・空き店舗が目立ち、独居高齢者が多く住民同士の繋がりも薄いなど、多くの課題があった。公民館は古く、講座もマンネリ化しており来館者も少なかった。そこで、公民館のイメージチェンジを図り、人が集う公民館とした。また、玖波の地域資源（歴史・文化・人材など）を生かし、ふるさとを愛する心を育みながら、学校・地域・公民館が連携・協働してまちづくりを行う取組を始めた。

3 学習目標

○玖波の地域資源（歴史・文化・人材等）について知る。
○公民館職員と「地域ジン」とが共に PDCA サイクルを構築し、ふるさとを愛する心を育くむと共に、住民が主体的にまちづくりに係ろうとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○玖波に眠っている宝物（歴史・文化・人材等）や世の中で話題になっている情報を集めるようにした。
○フェイスブック、ブログを活用し、積極的に情報発信し、協力・連携団体を増やして地域をまるごと巻き込むようにした。

5 留意点

○まちを変えるのは「人」であり、すぐに結果を求めず、継続して取組を進めた（諦めない姿勢が大切！）。
○少ない職員（常駐1人）と予算の中で、参加者の意識改革や多様な人を巻き込むための方策を考えた。
○地域の方が、やらされるのではなく、やりたいと思ってもらえるような取組になるように意識しておく。

6 成果

○参加者は平成28年度に3,636人にのぼり、協力・連携団体数は21団体になった。
○SNS更新数は年間365回以上を達成した
○多世代間の住民の絆づくりが行われ、学校・地域・公民館の連携が取れるようになった。
○多くの参加者が自覚をもち地域の課題に取り組むようになった。
○平成26年度には文部科学省の第67回優良公民館表彰において最優秀館として表彰された。
○平成27年度には広島県チャレンジフォーラム2015 地方創生 まち部門で表彰された。

7 課題

○まずは、地域の方が集まらないといけないし、地域課題に対することも、やらされているのではなく、やりたい気持ちにならないといけない。→平成23年度に「学びのカフェ」の開始
○中学校との連携は非常に難しかった。何年もかけて、やっと生徒が来るようになった。
○カルチャースクールとの差は、「学び」を地域に生かすということである。また、「人」と「人」のつながりをつくるのが大事であり、それは防災や防犯等、様々ことにつながり、まちづくりの基礎になる。

8 今後に向けて

○講座を継続開催し、地域におけるコミュニティエリアを拡大し、ふるさとを愛する心や地域を担う人材を一層多く育み、PDCA サイクルを働かせながら、地域全体を巻き込みながらあらゆる地域課題を発見し、その解決に向けて取り組んでいきたい。

古民家・空き店舗改造カフェ

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
平成 29 年 5月8日（月） 19:00～20:40	大竹市総合市民会館	①街を変える主人公をつくる講演会 （大竹青年会議所主催：5月例会）
平成 29 年 7月1日（土） 13:30～16:00	大竹市立玖波公民館	②まちづくりワークショップ（第1回） ・「まちの未来を本気で考えよう」玖波駅周辺の空き家対策を起点とした、地域活性化を考えるグループワーク
平成 29 年 7月29日（日） 13:30～16:00		③まちづくりワークショップ（第2回） ・「残したいもの」「改善したいもの」「創りたいもの」 →空き店舗の活用について提案
平成 29・30 年 8月頃～3月頃 土日等で作業可能な時間帯	イノベーターズハウス	④空き店舗の改築 ・地域住民の有志が土日を中心に作業 ・資材等は有志による持ち寄り
改装完了～現在 月1回程度 その都度時間設定		⑤毎月テーマを決めてミニ集会を開催 ・地域住民の興味のある話題 ・飲食、飲酒可で平日土日問わず開催可



対 象	①まちづくり・地域づくりに興味のある市民 ②大竹イノベーターズメンバー ③④⑤地域住民
経 費	①500円 ②③④参加費無料 ⑤必要に応じて徴収
連携先	大竹青年会議所，大竹市都市計画課，建物所有者，地域住民有志

問
合
せ
先

大竹市立玖波公民館
〒739-0651 大竹市玖波 1-10-1
電話：0827-57-7084 ファクシミリ：0827-59-0004

2 講座設定の理由（学習の目的）

○地域に空き店舗や空き家が点在しているため、まちづくり・地域づくりのための活用に向けて住民が主体となって活動し、ネットワークの構築を図る。

3 学習目標

○地域内の空き店舗や空き家の効果的な活用について先進事例を学ぶ。
○地域内の空き店舗を活用して、地域の活性化のために住民が集える場所を作る。
○地域住民と一緒に空き店舗の活用に向けた作業（改装等）をすることで、住民同士の連帯感を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○建物所有者との連絡・調整・連携
○改装に必要な物品や資材（地域住民の有志による提供）
○まちづくりワークショップの事前準備として、ファシリテーター勉強会を実施

5 留意点

○建物所有者に活動の目的や趣旨を丁寧に説明し、協力を得る。
○自分たちのものではないこと、費用や予算もないことが前提の活動であることを周知し共有しておく。
○建物はその後、所有者が変わったり売却されたりすることも想定しておく。

6 成果

○個人利用や利益を求めず、地域づくりのために空き店舗の活用について話し合い、その思いを形にして活用することができた。
○地域を活性化させるために住民がいつでも集える場所を提供することができた。

7 課題

○より多くの地域住民の方に利用をしてもらうためのしかけや工夫をする必要がある。

8 今後に向けて

○継続的な利用の促進・維持を図り、会場を利用したイベント等の企画を行う。

このまちにくらしたいプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成29年 5月28日(日)	古田公民館, アルパーク	オリエンテーション, 冒険あそび場 PR
6月11日(日)	古江西町公園	第1回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
7月23日(日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習①
8月20日(日)	古江西町公園	第2回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
9月24日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ①
11月5日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ②
11月26日(日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習②
12月17日(日)	古江西町公園	第3回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
2月4日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ③
3月4日(日)	古江西町公園	第4回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催



対象	園児, 小学生, 中学生, 高校生, 大人 延べ615人
経費	53,347円 (内訳: 報償費 25,000円・需用費 28,347円)
連携先	多世代寺子屋ネットワーク, もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」, 古江西町町内会, 古江女性会, 古田学区子供会

問合せ先

広島市古田公民館

広島市西区古江西町 19-15

電話 082-272-9001 ファクシミリ 082-272-9001

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。
- これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材を育む。

3 学習目標

- プロジェクトをよりよくするためのアイデアを出し合い、企画・運営することができる
- 地域への愛着をもつと共に、自分にできることを実践しようとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 意見を出し合う場の設定や雰囲気大切に、互いの意見を尊重するようにする。
- 記録（写真・アンケート等）を残し、改善につなげていく。
- 来場する保護者には、子供の活動を見守るようにお願いして、なるべく支援をしないようにしてもらう。

5 留意点

- 中学生以外にも、参加する高校生や大学生がゲスト的な立ち位置にならないよう、それぞれに遊びの企画をつくる課題提案を依頼し、自発的な意識づけを促す。
- 持続可能な取組にしていくために、事務的な手続きも徐々に連携団体に引き継ぎをしていく。

6 成果

- プロジェクトが開始してこの5年間に整備・蓄積してきた運営ノウハウを生かし、イベント実施回数を前年比倍増の年4回行うことができた。また、近隣の郵便局等で活動を紹介する写真展も実施するなど、住民向けの広報も積極展開している。これらにより、冒険あそび場の認知度は一層高まり、地域団体や住民等の支援や協力も充実しつつある。
- 中区基町で行われている「もとまち自遊ひろば」との交流活動の中から、SNSを活用した冒険あそび場づくりのネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」が発足し、他地域の活動団体との情報交換や交流の場が生まれた。

《アンケート結果》

- 満足したと答えた来場者 93%
- イベント参加体験後、地域の公園に対する考え方が変容した人 85%

7 課題

- 募集時に中学1年生の参加が少なく、学年の偏りがあることから、次年度の世代交代時の影響が懸念されるため、募集方法の工夫が必要である。
- 予算の確保を助成金に依存しているため、運営経費の捻出に工夫が必要である。現在は公園でのバザー販売や寄付募集などができないため、カフェやおやつは無料提供している。子供会など地域団体等との連携なども視野に、地域行事としての支援を得やすい方向性を探りたい。

8 今後に向けて

- 中学生によるプロジェクトチームが「広島県こども夢基金」の助成を受けて、始動している。
- これまで来場者だった小学生が企画運営メンバーとして参加してきており、公園の主役である子供たちが、自分たちのあそび場を自分たちで作りだすことに期待している。
- 冒険あそび場ネットワークに参画し、あそび場マップづくりや交流シンポジウムなどを計画中しており、公園活用以外のテーマを探るとともに、プロジェクトとしての自立を促進するサポートを行う。

ふちゅう井戸端会議

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
第1回 平成30年 8月26日(日) 13:00~17:00	府中市 生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○講師 (まちづくりに関わる人) の活動紹介 ○活動紹介の中で感じたことをグループ内と全体で共有 ○ワーク「まちづくりについて」「府中, あるいは自分の住んでいる町の好きなところは?」(2人組) でインタビュー ○興味・関心事が似た人とグループワーク ○全体シェア (各グループで出た意見を発表する)
第2回 9月30日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○ファシリテーション講座「場づくりの説明 (物理的デザイン+心理的デザイン)」 ○実際に様々な技法を体感する。
第3回 10月14日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨・目的・流れ等の説明 ○チェックイン・アイスブレイク ○講師のデザイン等活動の紹介 ○グループ交流「もっと知りたいこと」「ヒントが得られたこと」(4人組) ○質疑応答 ○チラシ作り講座 ○チラシ作りワーク (レイアウトを考える)



対象	まちづくりや市民活動に興味のある人
経費	講師謝金 37,800 円 (2日分打合含) 講師補助 5,760 円 (1回あたり), ゲスト講師 10,000 円 参加費無料
連携先	第1~3回 講師: 小谷直正 (ファシリテーションびんご) ゲスト: 水主川緑 (NPO法人府中ノアンテナ代表理事)

問合せ先

府中市教育委員会生涯学習課

府中市府川町 315 番地

電話 0847-43-7181

ファクシミリ 0847-46-3450

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 学びの機会及び交流の場を提供することで将来の地域づくりを担う若手の人材を育成し、地域社会が活性化していくシステムを構築する。
- 地域の連帯感や支え合いの意識が希薄になってきている中で、人と人とのつながりを持てる場を設定することで、人と人とのマッチングや人材発掘に繋げる。

3 学習目標

- 全 体：まちづくりについて関心事を深めることとそれを形にするための技法を学ぶこと。
- 第1回：まちづくり活動している人の話を聴き、参加者のやりたいことを発掘し、参加者同士で交流する。
- 第2回：ファシリテーションの技法を学ぶ。
- 第3回：デザインの大切さを知り、実際に伝えることを重視したチラシをつくる。

4 事前に必要な知識や準備物

- ホワイトボード、模造紙、プロジェクター、スクリーン、名札、アンケート用紙等
- 講師との連携
- おかしや飲み物（カフェのような雰囲気づくり）

5 留意点

- 講師との打合せ（月1回以上）
- 広報（町内会回覧板、公共施設へのチラシ等設置、企業へのチラシ配布、HP、フェイスブック）
- 参加者にメールアドレスを聞いておくことで次回や別の事業の案内を送れるようにする。

6 成果

- 幅広く広報を行ったため、企業からの参加者もいた。
- 参加者同士をマッチングさせることができ、新たな活動に繋げることができた。
- アンケート結果：「活動したいと思った（50%）」「他の人の話に興味をもてた（50%）」

7 課題

- 対象が広すぎた。もう少し年齢層を絞るなどしていかないといけない。
- すぐにアウトカム（波及効果）が出るものではないため、経過についてアンテナをはって地域の情報を集めていかなければならない。
- 広報紙の内容が分かりにくいという指摘があった（どのような内容でどのようなことをするか）
- 設定時間が4時間だと長く感じる（実際はワークショップ等を行うので体感時間は短く感じるのだが）

8 今後に向けて

- 公民館の職員にも参加してもらってノウハウを学んでもらい、各公民館で職員がファシリテーターとなってまちづくりへの取組につなげていく。
- 対象を絞っていくとともに分かりやすい広報を心掛ける。
- 地域の行事とも重ならないような日程を組んで実施していく。

未来のタネを見つけよう

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 1 月 24 日(水) 5・6 校時	庄原市立 比和中学校	<p>○ワークショップ（中学校）</p> <p>テーマ：比和に住んでもらうために必要なこと（PR）</p> <p>①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②それをどのように利用すれば、人を呼び込めると思いますか？ ③実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？</p>
2 月 7 日(水) 5・6 校時	庄原市立 比和小学校	<p>○ワークショップ（小学校）</p> <p>テーマ：比和の未来の種を見つけよう</p> <p>①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？</p>
3 月 10 日(土) 10:00～ 12:30	比和自治振 興センター	<p>○開会行事・趣旨説明</p> <p>○小学生、中学生の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来へ残したいものと自分たちにできること（小学生） ・地域活性化のための提言（中学生） <p>○パネルディスカッション</p> <p>「子供達の提言を受けて、地域の活性化のために今後取り組むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター：地域再生診療所 井上弘司 ・パネリスト：比和自治振興代表、子育てコーディネーター、庄原社教比和地域センター代表、PTA代表 <p>○全体総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域再生診療所 井上弘司



対象	比和町地域住民 120 人
経費	参加費無料 謝金支出など
連携先	比和小学校、比和中学校、庄原市役所比和支所、庄原市社会福祉協議会比和地域センター

問 合 せ 先	庄原市比和自治振興センター
	庄原市比和町 1991-1
	電話 0824-85-2600 ファクシミリ 0824-85-2421

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢化の進展の中で少しでも人口減少を抑制するため、郷土に愛着を持つ子供、若者を育てる。
- 地域学校協働活動や子育て支援に力を入れて町外の方にも地域の良さを分かってもらい、この地域で子供を育てたいと思えるようにしていきたい。

3 学習目標

- 比和の魅力について気付く。
- 地域の宝を守り、残していこうとする意識を育てる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 広報チラシ
- PPT資料
- コーディネーター、パネリストとの連携

5 留意点

- 三者（市役所比和支所、社会福祉協議会比和地域センター、比和自治振興センター）での連携を密に図り、方向性を共有しておく。
- 地域、学校が協働して地域で子供を育てるという意識を共有しておく。

6 成果

- 大人にとって当たり前だと思っていたものを子供たちが地域の宝として提案してくれたことでその良さについて再確認することができた。
- 子供たちの様子を見て、未来に地域の宝を残し、守っていかないといけないという大人の意識が変わってきた。

7 課題

- 地域づくりの学習はまだこれからであり、みんなで地域の宝を守り育てていくという意識を育てていく。
- 提案されたものを行動に移していくためにみんなが学んで行く必要がある。
- 人材が不足しているので連携先と役割分担をするなど組織の在り方を検討していく必要がある。

8 今後に向けて

- 子供たちが提案してくれたもの（そばクレープ、酒米で作った甘酒等）を形にしていく。
- 振興計画に沿って、大人も地域を見直し、何ができるかを考えていく

子育て支援者ボランティア学習会

地域を学ぶ	—	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 2月 21 日(水) 10:00~ 12:00	佐東公民館	テーマ：わらべうたで子育て支援 ○わらべうたについて <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたとは ・わらべうたの分類 ・成長の段階をおって、人として大切なもの ・わらべうたは日本語のリズム ○実践してみよう <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・集団遊び ・数遊び 等
平成 31 年 2月 13 日(水) 10:00~ 12:00		テーマ：絵本から始める子育て支援 ○大人から子どもへ～絵本を手渡しするためのアドバイス～ <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい時間の提供 ・コミュニケーションの道具（しつけや文字を覚えるものではない）等 ○読み聞かせでの本の持ち方，読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースで読む ・教育にこだわらない 等 ○絵本の選び方



対象参加者	子育て支援等の活動に携わっている方，子育て中の方，関心のある方 (参加者 29年度：17人，30年度：10人) 託児（29年度：1人，30年度：1人）（先着5人：無料）
経費	参加費0円 講師謝金 12,000円，監護謝礼金 1,800円（託児1組利用）
連携先	子育て支援者ボランティア

問合せ先

広島市佐東公民館
 広島市安佐南区緑井六丁目 29 番 25 号
 電話 082-877-5200 ファクシミリ 082-877-5200

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 公民館で子育て支援等に携わる活動をしている人（団体）に活動のステップアップとなる学習機会を提供する。
- ボランティア同士の情報交換・交流の場とする。

3 学習目標

- 子育て支援ボランティア活動する上で身に付けておくべき技能を身に付ける。
- 子育て支援ボランティア団体同士のネットワークを構築する。
- ボランティア活動への意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 子育て支援者ボランティア（まほうのポケット、子育てサロン Sugar、図書ボランティア、託児ボランティア）へ案内する。
- 行事等の少ない2月に実施することで参加しやすいようにする。

5 留意点

- 子育て中の方も参加しやすいように託児付きとする。（託児ボランティアに監護者になってもらう）

6 成果

- 子育て支援者、子育て中・孫育て中の方がそれぞれ目的をもって参加されていた。
- 講師による学習会は大人自身が癒され楽しい学習の場となった。
- アンケート結果（今後の活用意欲 100%）「子供たちに伝えていきたい」「支援活動に活かしていきたい」とあり、ねらい通りの成果を得た。
- 託児付にしたことで子育て中の方の参加が得られた。

7 課題

- 参加者の中には、スキルアップまで望まない方もおられ、意欲を高めることが難しい。

8 今後に向けて

- 継続を望む声も多く、引き続き公民館として支援者への学習の場を提供していきたい。
（例）救急救命、AEDの使い方等

子育て応援交流会（井戸端かふえ）

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 7月 13 日(木) 10:30~11:30	祇園西公民館	テーマ：こども（公民館まつりにあったら嬉しいもの） ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場
平成 30 年 3月 8 日(木) 14:00~16:00		テーマ：子どものころを育むあったか手づくりおやつ ○シフォンケーキの試作・試食 ○座談会
平成 31 年 2月 13 日(水) 10:00~11:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう① ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場（自己紹介），次回の予定
平成 31 年 3月 11 日(月) 14:00~15:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう② ○座談会 ・興味・関心の高い健康づくりについて



対象	子育て世代，高齢者 延 30 人
経費	参加費：50 円（茶菓子代），200 円（シフォンケーキ材料費等）
連携先	祇園西公民館ボランティアグループ「子育て応援交流会」

問合せ先

広島市祇園西公民館

広島市安佐南区長束六丁目 10-28

電話 082-874-5181

ファクシミリ 082-875-1760

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 子育て支援を軸とした多世代にわたる住民同士のネットワークづくり。
- 情報交換を通して子育て支援をきっかけとしたまちづくり事業の着眼点や企画力の向上。

3 学習目標

- 子育てに役立つ知識を得たり，技能を身に付けたりする。
- 子育て世代同士，及び子育て世代と高齢者とのネットワークを構築する。
- 子供を中心としたまちづくりについて考える。

4 事前に必要な知識や準備物

- ラベルワークに必要な物（付箋・模造紙・マジック等）

5 留意点

- 事業の目的を伝え，主催者の意図を理解して参加してもらうようにする。
- 話し合いの場では，参加者の意見が互いに尊重されるよう，職員が入りすぎないように心がける。

6 成果

- 自分たちの活動の目的を明確化し，記録として残したことで，適時目的に立ち返ることができ，話し合いの内容を深めることができた。活動もしやすくなった。
- 座談会も参加者だけで進行できるようになってきた。
- アンケート結果（満足度 100%）

7 課題

- メンバーが減り，限られた人数での活動が行き詰っているため，新規メンバーを募り活動の活性化を目指す必要がある。
- 子育て世代の参加が少ない回もあった。来てほしい人に情報が届くように SNS・ツイッターなど広報を検討する必要がある。（チラシを新聞等に織り込んでもらっているが，新聞をとっていない家庭もある。）

8 今後に向けて

- 中・長期的な視点をもって，独立したボランティアグループ化やリーダーの育成を目指す。

通学合宿

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 10月12日(木)	小谷地域 センター	○開所式 ○my コップと箸づくり (竹細工) ○班ごとのミーティング ○夕食 ○ナイトウォーキング ○反省会
10月13日(金)		○登校(P T Aの方が安全管理者として学校まで付添) ○キャンプファイヤー ○入浴 ○宿題 ○反省会
10月14日(土)		○朝食準備, 朝食 ○大丸目山登山 ○昼食, 片づけ, 清掃 ○閉所式 (参加努力賞の表彰, 班毎にチェックリストの報告, 総評)



対象	小谷小学校高学年の参加希望者 (4年生 - 12人 5年生 - 22人 6年生 17人)	
経費	○参加費を徴収 3,500円/1人あたり×51名=178,500円 ○まちづくり協議会 20,000円助成金(青少年育成費として)	合計 198,500円
連携先	○小谷小学校(校長, 教頭, 担任の先生方), 小谷小学校P T A(59名) ○地元自治会(小谷小学校区市民協働まちづく協議会) 女性部会(21名) 環境部会(6名) おやじの会(5名) 文化・青少年育成部会(6名) 広大生(4名) センター職員(2名)	

問合せ先

東広島市小谷地域センター
東広島市高屋町小谷 5560
電話・ファクシミリ 082-434-3758

2 講座設定の理由（事業の目的）

○地域における人間関係の希薄化に伴う子供達の体験活動不足やコミュニケーション能力の低下が懸念されており、子供たちのコミュニケーション能力や自主性を養う。

3 学習目標

○体験活動を通して、身に付けておくことが望ましい技能（ナイフの使い方や火の扱い方等）を身に付ける。
○異学年(4, 5, 6年生)との集団生活の中でコミュニケーション能力や自主性を育む。

4 事前に必要な知識や準備物

○企画～準備委員会の立ち上げと打合せ～実施～実施報告～反省会を含む流れは時間も要するため、きめ細かい準備が必要であり協力体制づくりを丁寧しておく。
○事前に児童の健康管理票及び承諾書の提出を義務づけている(規定様式)
○テーマに対するチェックリスト一覧表を作成(班ごとに自己管理する)し、今後の反省材料とする。

5 留意点

○参加への意欲を持たせるため4年生～6年生を通じて3年間、自主的に参加した者には「参加努力賞」の授与をする(29年度からスタートする6名を表彰する)
○規律ある集団生活を身に付けるため、全員が合宿に向けた意思疎通を図るテーマを設定し自主的、積極的に各自が目的に向かって活動できるようにする。
○異学年との集団生活は協力と創意工夫する事で自主的に行動をすることが期待でき、活動を通してコミュニケーション能力の育成の場とする。

6 成果

○参加者で班編成とリーダーの選任や利用する部屋に合宿テーマを掲示して毎日全員で確認することによって自覚と自主性、行動力を促し目標に向かって協力体制づくりができた。
○2泊3日の短期間での合宿は、よい思い出づくりや集団生活のルールについて考えることができ、望ましい人間関係づくりができた。
○積極的な意見交流と協力、スケジュールに合わせた自主的な行動、考える力などが養われた。

7 課題

○地域センターは限られたスペースであり、衛生面の設備不足(洗面、トイレ等)なので児童の参加人数が限られ最大でも50名迄であり、それ以上は受け入れるスペースがない。
○所持品には名前、忘れ物、毎年繰り返し伝えるが必ず最後に不明の物と忘れ物がある。

8 今後に向けて

○小谷地域センターの伝統的な事業であり、問題点、課題などは反省会で意見を述べ合って少しずつ改善レベルアップに繋げている。

オール重井で協働のまちをつくり隊

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 8月1～2日(木・金) 14:00～22:00 6:30～12:30	尾道市重井公民館	① 宿泊体験学習 ・地域の方の講話(5名) ・防災体験学習(尾道市総務課)
令和元年 9月14日(土) 10:00～12:00		② 敬老会 ・生徒代表による作文朗読
令和元年 11月1日(金) 14:00～16:15		③ 重井中学校 おのみち「心の元気」ウィーク ・道徳授業地域公開 テーマ「郷土愛」 ・パネルディスカッション
令和元年 11月10日(日) 10:30～12:00		④ 重井町民文化祭・重井中学校文化祭 ・リサイクルバザー運営 ・生徒の授業作品展示, 合唱披露
令和元年 11月22日(金) 13:50～16:35		⑤ 重井中学校 公開授業研究会 ・公開授業(道徳・総合的な学習の時間) ・パネルディスカッション



対象	①8/1:重井中学校1年生 8/2:重井中学校全学年 ②重井中学校生徒代表 ③④⑤重井中学校全学年・保護者・地域住民
経費	①1,000円(バーベキュー材料費, 朝食(パン・牛乳)費, 昼食(非常食)費 ①③⑤需用費3,000円 役務費9,700円(広島県公民館等活性化モデル事業助成金) ②④参加費等無料
連携先	尾道市立重井中学校, 同卒業生(北ライター), 尾道市総務課, 岡本製作所, 除虫菊坂総会, 白滝公園保勝会, 重井町区長会, 福山市立大学

問
合
せ
先

尾道市重井公民館

〒722-2102 尾道市因島重井町2978

電話:0845-25-0016 ファクシミリ:0845-25-0835

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 子供たち及び地域住民の公民館への親近感を醸成する。
- 子供たちのコミュニケーション能力や問題発見解決能力、情報活用能力を育成し、自主性や協調性を育む。
- 地域住民のちからを結集したまちづくりを推進する。

3 学習目標

- 重井町の自然や歴史・文化・産業などについて知る。
- 長年に渡り、重井町を支えてこられた高齢者と交流することで、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 地域の災害を通して地域防災について考えることで、郷土愛と主体性を育む。
- 地域課題の解決につながる研究と提案を行うことができる

4 事前に必要な知識や準備物

- 重井中学校，ゲストティーチャー，パネリストの連携（学習内容・時期・講話内容等）
- 尾道市総務課と講義・演習内容の確認・連携（防災学習等）
- 宿泊研修に必要なもの（食料・寝具等一式）

5 留意点

- 中学校と公民館の役割や分担を明確にする。
- 中学生が主体的に地域のこれからを考える場にする。
- 公民館で活動をする意義を学校と常に共有し、趣旨に沿ったメニューを提供する。
- 学習や活動の目的に沿った講師を地域や卒業生から発掘する。

6 成果

- 中学生が主役となる活動の場を仕組むことで、自主性や郷土愛を育むことができた。
- 地域課題の解決や地域防災の取組等について、中学生と地域住民と一緒に学ぶことができた。

7 課題

- 学校選択制等により、重井町から他地域へ進学している生徒の参加・交流機会の確保について検討する必要がある。

8 今後に向けて

- 今後も重井中学校と連携を密に行い、事業を継続していく。
- 地域住民との交流を通して、新たなゲストティーチャーや団体等を発掘する。

防災フェア in 向東

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 8月5日(土)	向東公民館	各団体長に協力依頼
11月6日(月)		連携団体へ「防災フェア」実施説明会
平成 30 年 12月2日(土)		防災フェアの具体的活動の打合せ会（小・中学生含）
1月13日(土)		小学生・中学生との最終打合せ （子供の役割，司会・クイズの出題，活動説明・炊き出し等について）
1月20日(土)		前日準備，団体・対象の子供との交流
1月21日(日)		防災フェア in 向東 ○防災グッズ展示と説明○防災クイズ大会○防災マップづくり ○段ボールで簡易トイレづくり○負傷応急処置の方法○炊き出し体験 ○講演（被災者の体験談）



対象	各種団体長，各種団体 小学生 中学生
経費	60,643 円 （内訳：・需用費 21,584 円・役務費 12,000 円・食糧費 27,059 円）
連携先	区長会，社会福祉協議会，公衆衛生協議会，民生委員会，体育協会，女性会，老人会，保健推進委員会，消防団，地域包括支援センター，防災アドバイザー，向東小学校，向東中学校，向東小 P T A，向東中 P T A，尾道市総務課生活安全係

問合せ先

尾道市向東公民館

尾道市向東町 8670-2

電話 0848-44-3955

ファクシミリ 0848-44-3955

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 各種団体・小中学校が繋がり、安心・安全に暮らせるまちの基盤づくりとして、公民館を核とした地域の防災力の向上を図る。
- 子供たちの自主・自立性を育てると共に、地域で子供を育てる風土をつくる。

3 学習目標

- 防災グッズの展示や説明、防災クイズ、講演等を通して、「自助」「共助」「公助」の考え方を知る。
- 簡易トイレを作ったり、応急処置をしたりすることができる。
- 地域で協力して防災を行っていくという意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 当日までの準備を5回行った。この準備が重要でありここで地域のネットワークづくり・地域の活性化に繋がる取り組みができた。

5 留意点

- 企画段階から小中学生にも参加してもらうことで、子供たちの自主性を高められるようにした。
- 「防災」を1つの手段として地域の子供から大人までが繋がる場を設定した。

6 成果

- 地域住民の当日参加が100人近くあり、防災意識の高さが伺えた。（スタッフは109人・計201人）
- 向東町の16団体を網羅して、ひとつの行事に向けて協働できた。
- 子供達が、企画の段階から積極的に関わり、生き生きと活動しており、防災意識の育成に繋がった。
- どのブースも大人のスタッフが、子供たちを全面的に支援・指導して活躍の場を与えてくれた。

（アンケート結果：肯定的評価100%）

「地域住民の繋がりの大切さ」「子どもと共に行う行事の有用性」「公民館の地域活性化への役立ち感」

7 課題

- 他の行事と重なってしまったため、当日の子供の参加数が少なかった。特に中学生の当日参加はなかった。（スタッフとして参加のみ）
- 大人と子供と一緒にって行事を行ったが、三世代交流ができたと感じた人の割合が他の項目より低かった。

（アンケート結果：肯定的評価94.4%）

「大人と子供と一緒に活動することで、三世代交流ができた」

8 今後に向けて

- 行事がひとつのイベントとして終わらないようにするために、事業が繋がるよう連続性を持たせたい。（平成30年度：地域の宝を探せ大作戦～環・輪・和・話で繋がるまちづくり～）

防災訓練&炊き出し訓練

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 10 月 31 日 (水) 18:30~ 21:00	□和自治 振興セン ター	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">「DIG」(ディグ) 図上訓練</div> ①グループリーダー，発表者の決定（自治会ごと） ②地図上にあるものを書き込む（青：川，茶：主要道路，緑：学校等） ③防犯拠点にカラーラベルを貼る（青：消防署，赤：警察，緑：避難所等） ④知っている防災情報や「防災まち歩き」で見つけたものを記入する （緑：安全な施設，青：災害時に役立つ場所，赤：危険な場所等） ⑤避難場所までの経路を記入する。 ⑥発表（3班） ⑦防災，災害対応の視点から見て，自分達の住む地域の特徴を記入する。 ⑧土砂災害ハザードマップで色分けする （黄：土砂災害危険区域，赤：特別警戒区域等） ⑨発表（3班） ⑩災害を想定 ⑪想定した災害が発生した場合の対応の仕方を話し合う（被害想定，事前準備等） ⑫発表（3班） ⑬講師の評価と座学（行政による避難情報と求められる行動について等） ※防災グッズや非常食の展示，炊き出し（女性部）



対象	自治会役員，消防団， 72 人
経費	講師謝金：0円（県の危機管理課職員のため）
連携先	庄原市社会福祉協議会 □和地域センター， □和自治振興区 女性部 庄原市消防団 □和方面隊，庄原警察署 □和駐在所

問合せ先	庄原市□和自治振興センター 庄原市□和町向泉 934-4 電話 0824-87-2213 ファクシミリ 0824-87-2135
-------------	---

2 講座設定の理由（学習の目的）

○住民自らが居住地域の危険箇所を熟知すると共に、地域コミュニティの強化を図り、防災、減災に地域を上げて活動し、災害発生時には、速やかな避難や命を守るための対応が行えるようにする。

※DIG（ディグ）

参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練。Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名された。

3 学習目標

○地域の危険箇所や防災拠点等について知る。

○防災について住民自らが自分のこととして考え、「自助」「共助」の意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○防災グッズ、非常食

○町内地図（A1サイズ）、○防災マップ

○シール、マジック、ビニールシート（地図上のからマジックで書くため）等

5 留意点

○防災に関する一般的な話ではなく、具体的な話ができるようにする。（高齢者や危険箇所が多い地形に対応）

○参加者が考えた避難方法を生かせるようにする。

6 成果

○防災意識を高めるところができた。（災害時には、どこのエリアが危険であって避難する際には何に気をつければいいか知ることができた）

○どこにどのように避難するか具体的な話し合いができ、共通認識を図ることができた。

○テレビの取材もあり、研修の様子を広く広報することができた。

○防災啓発ビデオ（自主防災組織立ち上げ）を作成し、今後立ち上げの可能性のある自治会に見てもらった。

○災害用伝言ダイヤル疑似体験ビデオを作成し、他の研修でも利用することができた。

○防火、防災に伴い地震対策のビデオも作成した。

7 課題

○福祉避難所の確保（要介護者への対応、町内の福祉施設との提携）

○自治会の役員の高齢化、固定化による業務の負担感

○研修の設定時間が限られており（夜2～3時間）、できる内容が限られてくる。

8 今後に向けて

○自治会の会議等の機会がある度に防災の話（防災啓発ビデオ）をすると共に、ビデオの貸し出し等も行い、広く周知していく。

○避難所の運営訓練を行うことで自主防災組織のイメージをつくる。

○「公助」には限界があり、「自助」「共助」による補完体制を整備していく。

東野発「災害をきざむ 地域をつなぐ」プロジェクト

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
平成31年 2月6日(水)・8日(金) 10:00~11:00 9:00~11:30	竹原市東野地区 (被災箇所・地域等)	①「東野町をたすけ隊」(東野小学校)の支援 ・被災した個所や地域等を児童と回り、被災者の声を聞きながら、防災マップを作る。
令和元年・2年 12月12日(木)・2月6日(木) 9:30~12:30	竹原市東野地域交流センター	②サンキューライスプロジェクト ・東野小学校5年生児童に、もち米の活用について提案し、おはぎ・赤飯づくりの場をコーディネートする。
令和元年 6月17日(月)・7月23日(火) 9:00~11:00 13:00~14:00	竹原市東野地区 (史跡・名所等)	③「東野町歴史探検隊」(東野小学校)の支援 ・地域の名所や史跡を児童と回り、学んだことを創作劇にして人・歴史・想いをつなぐ。
7月29日(日) 9:30~12:30	竹原市東野地域交流センター	④ひがしのキッズ(世代間交流子育て支援事業) ・郵便局から講師を招き、子供たちと保護者が絵はがきづくりを楽しむ。
11月17日(日) 9:00~12:00	竹原市東野地域交流センター 竹原市立東野小学校	⑤全校児童と地域住民による合唱披露 ・合同で合唱練習を行い、「ふるさと東野」「おりづる」「花は咲く」を発表会で披露する。
11月30日(土) 13:00~16:00	竹原市東野地域交流センター	⑥東野平和音楽祭 ・子供たちと地域の戦争体験者の話を聞き、合唱や演奏を行い、平和を願う心を発信する。
12月21日(土) 10:00~12:00		⑦ひがしのキッズ(世代間交流子育て支援事業) ・子供たちと住民と一緒に段ボール巨大迷路づくりやゲーム大会を楽しむ。
2月23日(日) 9:30~16:00	竹原市立東野小学校 竹原市東野地区 (被災箇所・地域等)	⑧グラウンドゴルフ大会・防災マップ地域巡り ・子供たちと地域住民がグラウンドゴルフで交流した後、防災マップを使って地域を巡る。

※①②③⑤は新規事業、④⑥⑦⑧は従来から実施の事業をリデザインして開催



対象	①②小学生(5年生) ③小学生(6年生) ④⑤⑥⑦⑧小学生・地域住民
経費	全て参加・活動費無料 (但し、事業に係る諸経費は ②竹原市立東野小学校、⑥東野町協働の町づくりネットワーク、⑦青少年育成会議東野地区、⑧東野町社会福祉協議会・東野町自治会が負担)
連携先	竹原市立東野小学校、青少年育成会議東野地区、東野町社会福祉協議会、東野町協働の町づくりネットワーク、東野町自治会

問合せ先	竹原市東野地域交流センター 〒725-0004 竹原市東野町 887 電話・ファクシミリ：0846-29-0546
------	---

2 事業設定の理由（事業の目的）

○竹原市東野地区は、平成 30 年 7 月豪雨で甚大な被害を受けた。それを契機に地域交流センターが学校と地域をつなぐコーディネート機能をさらに果たせるよう、これまでの事業の見直しと改善を行うとともに、「災害をきざむ 地域をつなぐ」をテーマに学びを通じた人づくり・地域づくりを行っていく。

3 事業目標

○地域の子供たちの学習や活動を支援し、多世代・次世代の住民に地域の歴史や災害から学んだ教訓を伝承していく。
○地域の子供たちと住民が積極的に関わり、協働することができる場やコンテンツを提供する。

4 事前に必要な知識や準備物

○地域の小学校と連携・調整、及び学習・活動に関わるニーズの把握
○災害後の東野地区の現状を踏まえた地域課題とニーズの把握

5 留意点

○平成 30 年 7 月豪雨で甚大な被害を受けていることから、被災者心情に配慮する。
○事業や行事の本番や当日だけでなく、準備・練習段階といった前後の過程も子供たちと地域住民が時間を共有し、協働できるように配慮する。

6 成果

○被災した事実を子供たちと地域住民が共有し、共に手を携えながら地域を支えていく心情を育むことができた。
○学校側から、地域交流センターを核とした学習や活動に関する相談や依頼が増え、その内容も年々充実してきた。

7 課題

○少子高齢化が進む中で、この 10 年間で世帯数はあまり変化はないが、小学校の児童数が半減し、事業に関わったり参加したりする児童・保護者も減少しているため、事業内容や規模、時期を検討する必要がある。
○地域の住民が事業の企画・運営に主体的に参画する機会が少なく、地域交流センターや職員への依存度も高いことから、その負担も大きくなってきている。

8 今後に向けて

○地域の若い世代の住民が参加者から「参画者」となり活躍できるように、事業や場をコーディネートしていく。
○東野地区に従来からある地域資源を活用しながら、事業をリデザインして地域づくりへとつなげていく。

郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 24 年 ～ 平成 30 年 毎月 1 回 9:00～ 12:00	神石協働支援センター (旧神石公民館)	<p>○伝統食・行事食等の郷土料理の掘り起しとレシピ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年「いきいきふれあい教室」結成 ・平成 24 年「残しておきたいおふくろの味」誌を発刊 <p>○新たな郷土料理等の掘り起し、当時の古い食器類の発掘・レシピ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度（14 回，延べ 119 人，料理約 50 品） ・平成 27 年度（18 回，延べ 148 人，料理約 60 品） ・平成 28 年度（21 回，延べ 108 人，料理約 30 品） ・平成 28 年度後半は，資料の整理，料理等の手直しを中心に行った。 ・平成 29 年度後半から，出版社との調整と校正を数度に渡り行った。 ・平成 30 年「続・残しておきたいおふくろの味」誌を発刊



対象	いきいきふれあい教室の会員 6 人
経費	印刷・製本費：約 160 万円 各回参加費：実費（食材費等）
連携先	神石高原町内全小・中学校，「こんにゃくづくり」「豆腐づくり」等各講座

問合せ先

神石町神石協働支援センター（旧神石公民館）

神石郡神石高原町高光 2117-10

電話 0847-87-0181 ファクシミリ 0847-87-0331

2 講座設定の理由（事業の目的）

○少子高齢化が進む中、伝統文化継承の取組として、「食文化」に着目し、郷土料理本の作成を行うことで、地域の伝統を守ると共に高齢者の活躍の場を設ける。

3 学習目標

○郷土料理の掘起こしを行う中で、各地域の長年の知恵や工夫により、身近な食材を利用して、多種多様な郷土料理が作られていることを知る。

○高齢者の活躍の場を設けることで生きがいをもてるようにする。

4 事前に必要な知識や準備物

○出版社との打合せ

○本に載せるレシピの選考

5 留意点

○月毎に開催日を決めることで、会員が参加しやすいように柔軟に対応できるようにする。

○活動毎に振り返りの時間を設け、各回の反省と次回に取り組むテーマを決め、会員交代で講師になる。

○料理別に担当者を決めることで役割を明確にし、料理手順を撮影、終了後料理毎に反省とレシピ等のまとめを行う。

6 成果

○活動を通して、参加者の意識も変わってきており、地域での「生きがいづくり」や「まちづくり」へとつなげることができている。

○本に掲載されたこんにゃく料理が「神石高原ランチ」として町内全小中学校の給食メニューの中に取り入れられ、給食放送等を通じて、御飯を中心とした一汁一菜の日本古来の食事の大切さや、早起きして朝食をつくり食べることの大切さを児童生徒に啓発されている。

○会員の高齢化が進み、会員数が減少したが、続編作成という目標を設定して、郷土料理（伝統食・行事食・保存食）の掘り起こしを継続してきた。

7 課題

○高齢化により会員数が減少しており、掘り起こしや資料の整理等の継続が難しかった。

○少子・高齢化により後継者に伝えていく機会等が少なくなっている。

○老老介護等の現状を抱えて、会員の集まりが悪い時が多々あった。

8 今後に向けて

○地域の行事で講師として郷土料理を紹介し、啓発活動を行う。

○保育所、小・中学校、高等学校等と連携し、ゲストティーチャーとして味噌作りの指導をしたり、協働支援センターでは地域の子供たちを対象にクッキング教室を実施し食事の大切さを伝えたりする。

満喫！かべ学「ボランティア養成講座」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 月 1 回程度 13:30~15:30	可部公民館・ 可部地区一円	○定例会 ・年間計画作り等 ○定期学習会（現地を見る，現地の人のお話を聞く，資料の作成） ・勝圓寺の歴史，品窮寺の歴史，散策マップ等
①7月22日(土) ②8月26日(土) 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座①② ・「可部のまち」を知る～可部のまちは，どのように生まれたのか？～
9月24日(日) 13:30~16:00	可部公民館 可部地区内	専門的な学び（講師：可部夢街道まちづくりの会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座 ・可部のまぢめぐり
1月27日(土) 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） 日本の文化「家紋」を学ぶ
10月15日(日) 9:00~16:00	可部地区内	ガイド実践「可部のまぢめぐりガイドを しよう」
10月19日(木) 13:30~15:30	可部公民館	ガイド実践反省会
平成 30 年 ①2月12日(月) 13:00~15:00 ②2月26日(月) 13:30~15:30	可部駅～ 河戸帆待川駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」に むけて ①（コース下見）②（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅
3月1日(木) 13:30~15:30	可部駅～あき 亀山駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」にむけて（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～あき亀山駅
3月4日(日) 9:00~11:00	可部駅～あき亀山駅 可部駅～河戸帆待川駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅，可部駅～あき亀山駅
3月25日(日) 10:15~11:15	明神公園他	ガイド実践 「可部のまちあるき」可部の舟運案内
対象	地域の歴史に興味があり，ガイドになりたいと思う地域の方 19名	
経費	講師料：6,000円×2時間×4回 参加料無料	
連携先	可部ガイドクラブ，可部郷土史研究会，可部夢街道まちづくりの会	



問
合
せ
先

広島市可部公民館

広島市安佐北区可部三丁目 19-22

電話 082-814-4031 ファクシミリ 082-814-4721

2 講座設定の理由（事業の目的）

○以前からあったガイドクラブやまちづくりの会のメンバーの高齢化により、ガイドができる人が減ってきており、古い町並みが残る歴史文化のある可部の町を広く伝えていくためにも、ガイドが出来る人を増やしていく。

3 学習目標

- 可部の歴史について知る。
- 学習と実践を交えてガイドの知識とスキルの向上を図る。
- ボランティアガイドになって、地域の魅力を伝えるとともに、地域への愛着を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- コースの下見，予行の実施
- HPや公民館まつりで発信していく。

5 留意点

○新規の方と以前からおられる方には知識量に差があるため、基本的な情報の共有と新たな知識の蓄積を目的とし講座を進めていく上で配慮する。

6 成果

- 養成講座の後，継続してガイドをする人は4人，一年前の修了生を含め計8人となった。更に以前から活動されているガイドクラブの方（5名）に学びながら積極的に実践にチャレンジして少しずつ自信をつけている。
- 「終着駅サミット in 広島」に参加された方（県外含）たちに実際にガイドをすることができた。この他にも山歩きの家や広島シニア大学等からもガイドの依頼がきている。

7 課題

- これまで数多く可部の紹介ブックが作成されているが、ガイド用のテキストとして整理されたものがない。
- 歴史を学べば学ぶほど、話したいことが増え、ガイドの説明時間が長くなることもある。
- ガイド希望者を対象にガイド養成講座を実施したが、間口を狭めることとなり新たな人材の発掘につながりにくい。
- 様々な理由で結果的にガイドにならない方もいる。

8 今後に向けて

- ガイド養成講座とするのではなく、学ぶことを中心とした講座「満喫！かべ学」で歴史について学ばれた方の中からさらにガイドに関心のある方に声をかけるようにしていく。
- 新規のガイド用のテキストブックを作成することで経験値による差を埋めるようにする。
- 新規のガイドコースを作る。
- 歴史を学ぶだけでなくガイド力（プレゼン能力・説明力・資料・心構え・時間配分等）の育成を図るプログラムを実施していく。

「子ども西国街道ぶらり旅～井口編～」 ボランティアガイド養成講座

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 7月21日（日） 9:30～11:30	広島市井口公民館	①講習Ⅰ ・ガイドテキストや地図等により、井口地区の歴史・史跡・山陽道について学ぶ。
令和元年 7月28日（日） 9:30～11:30		②講習Ⅱ ・講習Ⅰの内容を踏まえてガイドをする際の原稿を作成し、実際の話し方について学ぶ。
令和元年 8月25日（日） 9:00～12:00	広島市井口公民館 西国街道井口地域	③現地リハーサル ・コースを回りながら、ガイド内容を確認し、当日のシミュレーションを行う。
令和元年 9月15日（日） 9:00～12:00	西国街道井口地域	④「子ども西国街道ぶらり旅～井口編～」 ・参加者（小学生・保護者）に、コースを回りながら名所や史跡のガイドを行う。



対象	①②③④中学生以上 ④小学生（1・2年生は保護者同伴）
経費	①②③④参加費無料 報償費：48,000円（井口・鈴が峰魅力づくり委員会の講師4名分） ※但し、④の9/15（日）に、参加者へ提供したかき氷とわた菓子の費用は、井口・鈴が峰魅力づくり委員会・井口学区子ども会育成協議会が負担
連携先	井口・鈴が峰魅力づくり委員会、井口学区・井口明神学区子ども会育成協議会、広島市立井口小学校、広島市立井口明神小学校、広島市立井口台小学校、広島市立鈴が峰小学校、広島市立井口中学校

問合せ先	広島市井口公民館 〒733-0843 広島市西区井口鈴が台 2-14-8 電話・ファクシミリ：082-277-9258	広島市鈴が峰公民館 〒733-0852 広島市西区鈴が峰町 44-1 電話・ファクシミリ：082-278-7599
------	--	--

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 地域の名所や旧跡をガイドする、中学生以上のボランティアガイドを養成することで、地域への関心を高め郷土愛を育む。
- ボランティアガイド養成講座修了者が小学生・保護者に対して、地域の名所や旧跡をガイドすることで、達成感を味わう。

3 学習目標

- 地域の方との交流を通して、井口地域に残る名所、旧跡について学び、子供たちへ伝えていくことの意義について考える。
- 講習で学んだことを生かして、子供たちへ分かりやすく伝えられるよう、内容や話し方を工夫して何度もシミュレーションを行うことで、実際のコースを回りながらガイドを行うことができる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会と講義内容について確認（テキストの印刷・製本）
- 小中学校と連携し、ボランティアガイドと当日の参加者の募集
- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会、井口学区・井口明神学区子ども会育成協議会と当日の運営（コース・班編成、引率者、わた菓子・かき氷の準備等）について連絡・調整

5 留意点

- 講習会やガイド当日に中学生（ボランティア養成講座の参加者は中学生のみだった）のボランティアガイドが都合等により急遽欠席となる場合があるので、一人が複数か所のガイドをこなせるように準備（練習）しておく。
- 9月は気温が高いことが見込まれるため、熱中症対策を十分に行う。
- 成果と課題を把握するため、ボランティアガイドと参加者の双方にアンケートを行う。

6 成果

- 多世代の地域住民と一緒に井口地域の名所や史跡を巡り、歴史を学ぶことができ、地域への関心を深めることができた。
- ボランティアガイドの中学生が参加者の小学生等にガイドを行うことで、地域のために協働して活動する達成感を味わうことができた。

7 課題

- 散策コースがある地域外からは、遠方となり参加しにくい状況があるため、地域外の方も興味を持てるようなコースの設定やプログラムの工夫について検討する。
- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会のメンバーが高齢化しているため、講師役となる後継者の育成方法や開催時期（熱中症対策）について検討する。

8 今後に向けて

- 参加者が中学生のみにならないように、地域の成人の参加を広く呼びかけて、ボランティアガイド養成講座修了者が将来的に、井口・鈴が峰魅力づくり委員会のメンバーとして活動できるような体制・環境を整える。
- ボランティアガイドを経験した中学生が後継者となり、自主的に活動できるような、プログラム内容を検討する。

地域の宝・歴史学習

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 7月 14 日(土) 10:00 ~ 11:30	福田公民館	①テーマ：歴史セミナー【夏編】 ～福田型銅鐸と奴国弥生時代の国々～ ○福田の歴史を学ぶ ・なかずの池，行基仏像，木の宗山城主等
7月 22 日(日) 9:30～11:30		②テーマ：福田まなび塾 ～福田の歴史と銅器づくり～ ○福田の歴史について ○銅剣，銅鐸，銅戈づくり
11月 17 日(土) 9:30～12:30	地域	③テーマ：歴史セミナー【秋編】 ～謎の福田型「銅鐸」，行基作「念持仏」に魅せられて～ ○福田地域の史跡散策 ・銅剣，銅鐸，銅戈出土地（烏帽子岩），なかずの池等
平成 31 年 3月 2 日(土) 9:30～13:00		④テーマ：地域の宝「木の宗山」の清掃登山 ○登山道の清掃 ・福木幼稚園の木の宗山卒業登山の前に登山道を清掃，整備する。 ○福田の歴史を学ぶ ・木の宗山（登山道の烏帽子岩にて） ○昼食（カレー）



対象	①③④地域住民 ②小学生（2年生以下は保護者同伴）
経費	①③④参加費：無料 ②参加費：500円（材料費） 講師謝金：0円（歴史文化保存会，老年会連合会）
連携先	福田歴史文化保存会，福田老年会連合会，福田地区社会福祉協議会，福木女性会

問
合
せ
先

広島市福田公民館

広島市東区福田四丁目 4152-1

電話 082-899-2901 ファクシミリ 082-899-2901

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 銅剣，銅鐸，銅戈が出土した木の宗山や地域の歴史を知ること，地域への愛着を深める。
- 地域住民同士のつながりが希薄化する中で，清掃登山活動を行うことで，いろいろな世代の地域住民の交流の場を設ける。

3 学習目標

- 福田の歴史について知る。
- 地域への愛着心・関心を高める。
- 地域住民同士の交流を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 講師との連携（歴史文化保存会，老年会連合会等）
- 各団体との連携
- 雨天時の対応（順延や短縮等）
- 安全面での配慮（史跡散策，清掃登山）

5 留意点

- 中学生にも清掃活動に参加してもらうことで，ボランティア意識を高めるとともに，中学生と地域住民との交流の場となるようにする。

6 成果

- 清掃活動は長年にわたる取組であるため，他団体との連携や運営もスムーズに行うことができている。「また参加したい」等の肯定的な声が聞かれ，リピーターも多く参加している。
- 幅広い世代に福田の歴史について学んでもらうことができている。
- 長年住んでいても「木の宗山」へは初めて登ったという方もおられ，地域を知る機会となっている。
- 幼稚園にも卒業登山前に地域の歴史をまとめた紙芝居を朗読のグループが読みに行っている。

7 課題

- 講師が高齢のため今後の後継者が心配である。
- 雨天時の対応を考える。（清掃登山においては，後日有志だけで清掃活動を行う）

8 今後に向けて

- 今後も他団体と連携をしながら継続していく。
- 講師も高齢のため，後継者になる方を意識しておく。参加者の中から後継者が育つとよいが，参加者のプレッシャーにならないようにしていかなければならない。

地元の素材で和紙作り

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 31 年 1 月 19 日(土) 10:00~ 12:00	協和公民館	<p>○趣旨, 目的, 流れなどの説明</p> <p>○楮(こうぞ)を切る。 ・鎌を使って楮を切る。</p> <p>○楮の皮をむく ・蒸した楮の皮を熱いうちにむく。 (なるべく一枚の皮になるように気を付ける)</p> <p>○紙を漉く ・はがきサイズの和紙が作れる簀桁(すげた)を使う。</p> <p>○振り返り</p> <p>【和紙ができるまでの工程】 ①木を刈り取る②蒸す③皮をむく④皮の表面を削る⑤水にさらす⑥煮る⑦再度水にさらす⑧ごみをとる⑨繊維をほぐす⑩とろろあおいを水に浸す⑪紙を漉く⑫漉いた紙を積む⑬水気をとる⑭乾かす</p>



対象	小学生・保護者
経費	参加費 300 円
連携先	府中明郷学園, 地区女性会

問
合
せ
先

府中市協和公民館

府中市木野山町 48-1

電話 0847-68-2121

ファクシミリ 0847-68-2121

2 講座設定の理由（事業の目的）

○集落が谷間に位置し、土地も狭く稲作が発展しにくい中で、産業として江戸時代から和紙作りに取り組んでいる。地域の産業を伝えると共に特産品について学んだり、製作体験をしたりすることで地域への愛着を深める。

3 学習目標

○子供たちと地域住民との結びつきの強化
○子供たちの自主性・協調性の育成
○伝統文化の継承

4 事前に必要な知識や準備物

○説明資料（和紙づくりの流れを示したもの）
○原料（楮）や和紙作りの道具（簀桁）

5 留意点

○子供が対象なので長時間にならないようにする（長くても3時間程度）。
○鎌を使ったり、皮を剥いたりする活動をさせるため、安全面に配慮する。

6 成果

○小学校では「総合的な学習」でも和紙作りに取り組んでおり、積極的に質問をするなど意欲的に参加していた。
○鎌を使ったり、和紙を漉いたりするなどの普段できないことを体験することができた。
○子供たちが和紙作りの看板を作成し、寄贈してくれた。

7 課題

○小学校の授業との連携で公民館を活用しているが、この活動をきっかけにして普段から公民館に来てもらえるようにしていく。（5つの公民館に対して小学校が1つなので厳しい面もある）
○保護者の送迎がないと事業への参加が難しい。

8 今後に向けて

○今後も小学校と連携をとりながら進めて行く。
○将来的には和紙を生かしたランプシェードなど発展的なものを作成していきたい。

森の学校ごっこ in とよひら

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 10月20日（日） 9:10～15:00	ろうきん森の学校 (ひろしま自然学校)	○朝礼（開校式）とラジオ体操 ○50分×4コマの授業（午前・午後：各2時間） ・参加者が申し込んだ授業（希望）に参加

教室	1時間目（午前）		2時間目（午前）	
①	国語	森を書こう	生活	木の葉のファッションショー
②	図工	森の妖精を作る	生活	フェイスマッサージ
③	英語	私のアメリカ駐在生活	生活	セルフヘアカット
④	生活	アウトドアでアクシデント	体育	空手
⑤	社会	「今吉田」の幕開け	図工	風車でエコな工作
⑥	家庭	藍染体験	家庭	豪快！！男の料理

教室	3時間目（午後）		4時間目（午後）	
①	国語	森の絵本のおはなし	体育	森の中で忍者ごっこ
②	技術	モグラびっくり風車	理科	電気の話
③	国語	文字の不思議	音楽	万代池でミュージカル
④	生活	べんりな風呂敷	図工	森のステンシル
⑤	音楽	森の中でウクレレを弾いてみよう	家庭	自家製手造り味噌
⑥	理科	野鳥もチキンも大好き	家庭	ピザ×10



対象	○豊平地域にお住まいの方（地域外の方も可）
経費	○参加費：500円（弁当代300円，保険料200円，各授業の実費） 講師謝金：0円
連携先	NPO法人ひろしま自然学校，ろうきん森の学校，きたひろネット

問合せ先

北広島町豊平地域づくりセンター
〒731-1711 山県郡北広島町戸谷1113
電話：050-5812-4020 ファクシミリ：0826-83-0033

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 少子高齢化で過疎化が進む中、地域の施設や人材を生かして住民が学び合いながら集える場を設定する。
- 地域の住民が先生となり、それぞれの特技を生かすとともにそのノウハウを住民に提供し、「楽しく生きる」ことを通して、地域の活性化を図る。

3 学習目標

- 学校ごっこに参加することを通して、協働によるまちづくりへの関心や、地域で楽しく暮らそうとする意欲を高める。
- 地域に暮らす住民から様々な知識や技術を学び生活への糧にするとともに、自分の特技を地域へ披露したり提供したりしようとする心情を育てる。

4 事前に必要な知識や準備物

- テント、ブルーシート（ろうきん森の学校から借用）
- 各教室の講師となる人材（ボランティア）の発掘と依頼
- 町広報誌やケーブルテレビ等を活用した広報

5 留意点

- 地域へ出向き、日常的に交流しながら講師（ボランティア）を発掘する。
- 町内他地域の行事等と日程が重ならないようにする。

6 成果

- 地域住民同士のふれ合いを通して、ネットワークを築くことができた。
- 地域住民の特技を披露する場を提供することができた。
- 老若男女を問わず地域住民が交流する場を提供することができた。

7 課題

- 会場の使用可能日が限られており、日程変更が難しい。
- 一年あたり複数回の開催が難しい。

8 今後に向けて

- 来年度も同時期に森の学校ごっこを開催できるよう、地域住民と連携を継続する。
- 学習内容について検討（新規・継続）し、地元ボランティアの発掘を行う。

となりの達人に教えてもらおう！

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容（ ）内は参加・材料費
平成31年4月23日（火） 10:00～11:30	豊平地域づくりセンター	「包丁の研ぎ方講座」（無料） ○包丁の研ぎ方を学び、自分の包丁を研ぐ。
令和元年5月31日（金） 10:00～11:30	千代田地域づくりセンター	「アロマワックスサシェ作り講座」（600円） ○アロマの効果や効能を学び、サシェを作る。
6月14日（金） 10:00～11:30	芸北文化ホール （芸北地域づくりセンター）	「ヒンメリ作り講座」（500円） ○地元の藁を使って、多面体の装飾品を作る。
7月9日（火） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「スマホ写真の撮り方講座」（無料） ○スマホを使った写真撮影のポイントを学ぶ。
8月2日（金） 10:00～11:30	芸北文化ホール （芸北地域づくりセンター）	「カリグラフィー体験講座」（300円） ○手作りケース入りの飾り文字作品を作る。
9月26日（木） 10:00～11:30	千代田地域づくりセンター	「ハンギングテラリウム講座」（800円） ○多肉植物や石、小物等を飾り、作品を作る。
10月24日（木） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「あみもの講座」（300円） ○かぎ針を使った基本的な編み方を学ぶ。
11月15日（金） 10:00～13:00	千代田地域づくりセンター	「料理講座 絵本 de クッキング」（500円） ○絵本に出ている料理を作り、交流する。
12月12日（木） 10:00～11:30		「ガトーショコラ作り講座」（500円） ○お菓子作りのコツを学び、スイーツを作る。
令和2年1月23日（木） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「手作りこんにゃく講座」（300円） ○地元産の素材を使い、こんにゃくを作る。
2月14日（金） 10:00～11:30	豊平地域づくりセンター	「みそ作り講座」（1,500円） ○発酵の過程を学びながら味噌を仕込む。
3月18日（水） 10:00～11:30		「紙芝居作り講座」（300円） ○イラストを描き、手作りの紙芝居を作る。



対象	地域住民（他市町からの参加申込も可）
経費	講師料（5,000円 ※交通費含む）、託児謝金（必要に応じて） その他、参加費・材料費等が必要な場合はその都度徴収
連携先	北広島町千代田・大朝・豊平・芸北地域づくりセンター、講師（地域住民）

問合せ先	北広島町千代田地域づくりセンター 〒731-1533 山県郡北広島町有田 1220 電話：050-5812-2249	北広島町大朝地域づくりセンター 〒731-2195 山県郡北広島町大朝 2493 電話：050-5812-3025	北広島町豊平地域づくりセンター 〒731-1711 山県郡北広島町戸谷 1113 電話：050-5812-4020	北広島町芸北地域づくりセンター 〒731-2323 山県郡北広島町小田 10075-54 電話：050-5812-2070
------	---	--	--	--

2 事業設定の理由（事業の目的）

- 地域住民が講師となって自分の特技や趣味を生かし、その技を披露したり伝授したりする場を設けることで、町内4地域の住民同士の交流を図り、ネットワークを構築する。
- 町内4地域づくりセンターが協働して事業を行うことで、地域住民の学びの場づくりや人材・素材の発掘を共有し、効率的な生涯学習・社会教育の振興に寄与する。

3 事業目標

- 自分がこれまでに学んできた知識や技術を地域住民に向けて提供したり、披露したりすることができる。
- 講師の知識や技術から学び合い、多世代や他地域の住民と学びを通じた交流・体験を通してネットワークづくりにつなげる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 講師や参加者情報を整理し、年度末に成果と課題を踏まえて年間事業計画を策定し、講師の選定や内容について方向性を確認する。
- 町内の4地域づくりセンターで定期的にミーティングを行い、講師の選定状況や事業内容について連携・確認する。

5 留意点

- 講師選定にあたっては、事業の趣旨（ボランティア的要素が強いこと等）を伝える。
- 毎回託児コーナーを設け、子供連れの保護者が参加しやすい体制を整える。
- 参加者（申込）は、近隣市町等の町外からも可とする。
- 4地域づくりセンターから相互に職員を派遣し、事業の管理・運営にあたる。

6 成果

- 老若男女を問わず、多世代の住民同士が他地域の人や物、資源を知り、交流できた。
- 講師に選ばれることで、地域振興への意欲が向上するとともに、事業に対する意見やアイデアがたくさん聞かれるようになった。
- 町内4地域づくりセンターが協働することで、効率的な事業運営を行うことができた。

7 課題

- 地域住民の中から、講師となる人材を幅広く発掘していく必要がある。
- 地域の課題と住民のニーズの双方を組み合わせ、且つ住民が参加してみたいと思える魅力的な講座を企画すると共に、学んだことを生かし還元する場の充実を図る。
- 町内の全住民に向けて事業を周知するための、多様な広報活動の在り方を検討する。

8 今後に向けて

- チラシだけでなく、町広報紙やケーブルテレビの活用も検討し、多様な手段で広く事業の広報活動を行う。
- 地域の課題と住民のニーズを整理し、双方の課題解決に向けた講師の選定や各回の事業内容について検討し、計画を立てる。
- 講座に参加した住民同士のネットワークを構築し、新たな事業展開へつなげていく。

